

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

暑かった今年の夏は、9月23日の秋分の日（彼岸の中日）を境に涼しくなりました。暑さ寒さも彼岸までという言い伝えを実感しました。さて、5県交流会は、今年は行動制限もなく中国地方5県から約50名が参加して、顔見知りの人たちが互いに懐かしみ、新しい人も加わって、同じ思いを持つ人たちとの交流を楽しんでいました。

活動は、交流の輪が少しずつ広がりつつあります。会員の皆さんが、それぞれ興味ある活動に参加するとともに、それぞれの地元での活動を活発化させてください。観察会の企画運営、自然保護活動など会員の皆さんと一緒に、協力して確実に進めていきたいと思っております。

今後の活動予定

忘年会

- 忘年会（勉強会）：12月17日（日）13時～20時 e-Tam 自然と教育研究所で開催。13時～勉強会（話題提供者は山根さん）。

15時～忘年会（おやつタイム、飲み会へと続きます）。途中参加や早退など適宜。参加希望者は、西本まで。

NACS-Jの自然観察指導員講習会 2024年

- 開催日：3月9日（土）～10日（日）
- 場所：茨川青年自然の家
- 内容：自然観察指導員講習会（詳細は決まり次第お知らせします）

●NOI 岡山の会員の皆さんの協力が欠かせません。協力していただける方は連絡してください。後輩を育成する良い機会です。

- 申込：西本 taknishi@js4.so-net.ne.jp

中国地方5県交流会（担当は山口県）と第28回自然観察会

- 開催日：2024年4月中旬
- 場所：山口県内（十種が峰周辺）

詳細は、連絡があり次第お知らせします。

第29回自然観察会—早秋の毛無山の植物

- 日時：2024年4月28日（日）
- 場所：毛無山（新庄村）
- 特徴：早春のブナ林の林床で開花する春植

物を観察する。山菜料理の昼食弁当を楽しむ。

- 連絡先：西本 taknishi@js4.so-net.ne.jp

年次総会と第30回自然観察会

- 日時：2024年6月9日（日）
- 場所：鬼ノ城ビジターセンター
- 総会：10時～12時 年次総会
- 自然観察会：13時～15時 鬼ノ城の自然

保護区で、湿生植物やハッコウトクボなどを観察する。

- 連絡先：西本 taknishi@js4.so-net.ne.jp

自主活動や協賛行事

会員がそれぞれの地域で、調査を実施したり、自然観察会を開催したりするようになっていきます。会員の皆さんが相互に参加できるように、西本まで情報をお寄せください（上記のアドレスに）。会員の皆さんに随時発信していきます。

- 秋のこどもの森 自然観察会
「～どんぐりを探しに行こう～」
日時：2023年10月29日（日）
10時～12時

場所：岡山市こどもの森
連絡先：福元（080-1944-0143）

活動報告

県外研修（自主活動） 2023年8月6日～8日

山根一郎

「高知～牧野植物園・横倉山～仁淀ブルー（中津渓谷）～伊尾木洞・室戸ジオパーク～吉良川町（御田神社）最御崎寺・金剛頂寺～魚梁瀬スギ林（千本木山）」（当初計画したルート）

2023年の県外研修は、高知方面の盛沢山の計画でした。あいにく台風6号の影響で大幅に計画変更になりましたが、参加者の日頃の行いか、「運」に恵まれ充実した研修となりました。研修できた場所の印象のみ報告し、会員の皆さんと共有したいと思います。

今回の研修のポイントは「牧野富太郎ゆかりの地を訪ねる」ことでした。高知県の地質は三波川帯、秩父累帯、および四万十帯に区分され南側ほど新しい地層が分布しています。秩父累帯などにある石灰岩や蛇紋岩の分布地は、特殊岩石地帯と呼ばれそれぞれ固有の生物の生息地となっています（「高知の自然」参照）。また室戸岬方面は黒潮の影響を強く受けた植生が発達（「四国の特異な植物」参照）しています。そのためそれぞれの場所での植物の特徴的な生き残りの戦略を学ぶことができる場所であると考えられます。それぞれの場所で印象に残ったものを紹介します。

【牧野植物園】標高1000m以上の冷温帯から温暖な海岸線までの植生を4つの気候帯のゾーンに区切って再現した土佐の植物生態園は、大変見ごたえがありました。また食虫植物の展示館には、ムシナモやタヌキモの展示があり、牧野富太郎の紹介展示には大変刺激を受けました。



写真1. 植物園の入り口。



写真2. 園内の植物生態園の遠望。



【室戸ジオパーク方面】廃校水族館では、海中に浮遊する廃プラスチック製品が展示してあり、海への人汚染について考えさせられました。室戸ジオパーク・御厨人窟付近ではプレートテクトニクスの隆起と海水準変動を実感し、温暖な気候の海浜植物（アコウ、ハマゴウ）を観察しました。最御崎寺では、ヤッコソウ（「らんまん8月10日参照」）の痕跡を観察し、御田神社（吉良川町街並保存地区）ではクスノキやアコウの大木それに着生する「ボウラン」も観察しました。



写真4. 廃校水族館。



写真5. 室戸ジオパーク。



写真6. 御田神社。



写真7. ムシナモ。



写真8. スエコザサ。



写真9. 海岸の大岩。



写真10. アコウ。

【横倉山自然の森博物館】台風の影響のために横倉山にはのぼることができませんでした。「人間が星や木やけものたちと言葉を交わしていた昔、自然は気まぐれ、でも一緒にいると楽しい 仲良く頼みます。見えない自然は神様です。(横倉山自然の森博物館パンフレットより)」を実感させる、「越智町・横倉山パノラマモデル」・「アカガシ原生林の不思議」・「横倉山のおいたち」・「地球の歴史」等の多数の展示物がありました。再訪したいと思いました。



写真11. 越智町立横倉山自然の森博物館。

感想：高知の地質（蛇紋岩地質）や気候等の環境条件に対して生理的特性を持ち成育していることをしることができた。例えば蛇紋岩地質の植物は、ニッケル障害を起こさないように鉄分を積極的に吸収しニッケル障害を回避していること。室戸岬の海浜植物は、乾燥に対応する対策をしていることなど、植物の（自然）の工夫の凄さを実感することができた。またこのような生き残り戦術は身の回りの植物でも同じだと思うので、その凄さを観察会参加者と共有したいものだと考えた。(Y)

自然観察会第26回 鯉が窪湿原 2023年8月27日

山内哲夫

今回の観察会は、西の尾瀬？とも言われている新見市の鯉が窪湿原です。江戸時代にため池として鯉が窪池を築造し、その後もため池を拡張しながら、周辺地域を採草地として利用してきましたが、その後の放棄により森林化が進行しました。

1981年に中四国地方では湿原として唯一、国指定天然記念物に指定されています。指定理由としては、オグラセンノウ、ビッチュウフウロ、ミコシギクなどの隔離分布を示す希少植物のほか、寒地系のリュウキンカ、エゾシロネ、ミズオトギリ、コタヌキモ、ヒメミクリのほか、ムカゴニンジン、アケボノソウ、ツクシミノボロスゲ、トキソウなどが分布し、ハッチョウトンボも生息しており、中国地方に残存する湿原として学術上の価値は高いということです。



写真1. 湿原入口の看板と駐車場。

まずは、赤紫色のミソハギと青紫色のサワギキョウが出迎えてくれました。勿論、当会の観察会ですから、単に花を美しいなあと鑑賞するだけでなく、西本先生から丁寧に説明していただけます。サワギキョウは雄性成熟というタイプで雄蕊が先に成熟して、虫に触れて葯を押し出す形で雌蕊が突き出てくることで自家受粉を防いでいるとのことです。



写真2. 入口に続く移植した人工湿原。



写真3. サワギキョウ。

そして、鯉が窪池の堰堤まで進み、順路とは反対に午前中は湿原らしい湿原（9号橋）でじっくり観察しました。こちらの湿原は、流紋岩を基盤とした地域で、流紋岩は風化しにくいいため栄養塩が乏しく貧栄養化のため、背の高い植物は育ちません。貧栄養ということで、菌根菌で栄養を確保するラン科のサギソウ等や食虫植物のモウセンゴケ、コタヌキモ、ミミカキグサ類が観察できました。



写真4. 良好な湿原では小型の湿生植物が多く生育する。

西本先生から、ここには花が黄色のミミカキグサ、淡い紫色のホザキノミミカキグサ、紫色のムラサキミミカキグサの3種類がありますと説明され、遊歩橋から観察しました。何気なく、可憐な小さな花をつける植物だと思っていたのですが、タヌキモの仲間で泥中に捕虫囊を持っており、ミジンコなどのプランクトンをゲットしているとのこと。他にもシラヒゲソウやアギナシが白い花を咲かせてくれていました。ヒツジグサがあり、本当に未の刻（午後二時）に花が咲くかと言うことになり、午後を確認すると咲いておりました。



写真5. モウセンゴケ。



写真6. シラヒゲソウ。



写真7. サギソウやホザキノミミカキグサなど小型の湿生植物が多く生育する。



写真8. ヒツジグサ。午前中には開いていなかったが、午後には白い花が咲いていた。

午後からは順路にしたがって、池の畔の林の中を歩きながら、様々なキノコも観察しました。所々に落ちているコナラの小さなどんぐりの付いた枝先は、ハイロチョッキリの仕業だと聞きながら進みました。上流部の湿原は、砂岩が風化して溶出した栄養塩類を含む水と栄養塩類を含まない水が流れていて、ケハンノキやヨシなどの植物が育ちます。5月には黄色のリウキンカが咲くことで有名な場所ですが、訪れた時期のスターは、やはりピッチュウフウロとオグラセンノウです。ピッチュウフウロは丁度訪問した時が最高で、あちらこちらで満開状態でした。オグラセンノウは遊歩橋から少し離れたところで咲いていたのを観察できたのですが、あの紅色というか特徴的な色彩は印象的です。



写真9 (左上). 歩道脇に出ているキノコを品定め。写真10(上). ケハンノキが生える湿原。写真11(下). ピッチュウフウロが群生していた。写真12(左). ピッチュウフウロの花びらの赤いレース模様が美しい。

堰堤の休憩所に代表的な8種類の花のイラスト額と説明文を飾っていたのですが、その内の4種類を今回観察できました。そして、西本先生からピッチュウフウロとオグラセンノウの学名には、あの牧野先生のネームが入っていますとの説明があり、びっくり。さらに、牧野先生のライバル?の松村教授の名前が、これも鯉が窪湿原を代表するミコシギクの学名に入っていますと聞き、2度びっくり。9月末になると、ミコシギク、スイランやアケボノソウも咲くので、また歩いてみたいと思っています。



写真13. 休憩小屋に展示された植物画と種名。Makino や Matsumura の命名者名があった。

花のシーズンとなるとニュース等で取り上げられる機会も多い鯉が窪湿原ですが、なかなか足を延ばされる方は少ないようで、今回も参加6名中2名の方が初めてということで、中々よい大人の遠足となりました。

9月16日～17日に鳥取県主催の交流会が鏡ヶ成で開催されました。5県から48名の参加。岡山県からは6名でした。行く途中で、三木ヶ原上り口にある、「瓢泉亭」の名物「牛うどん」を食べて、12時に奥大山鏡ヶ成に到着。一番乗り。

13時受付。13時30分開会。13時45分から野外観察会。夜の講義をしてくださる鳥取大学特任教授、日置佳之先生の先導で鏡ヶ成湿原にて実施されました。ススキ、タニウツギ、ハイイヌツゲ、キセルアザミ、マツムシソウ、オミナエシなど多種の植物が見られました。かつて排水路を造ったために乾燥化が進んでいた湿原を火入れやハイイヌツゲを伐採するなど手を入れることによって湿原を再生させている活動について説明を受けました。ススキ草原では、6月に草を刈る際に、刈り取り方を変えた実験を実施し、低く刈る、高く刈る、放置する、と比較して、低く刈ってしかも選択的に花を残す刈り方が、多くの花が咲く草原に再生させることができるという結果となったそうです。

夕食後、18時30分より「鏡ヶ成における湿原・草原の再生」について、日置先生より講義がありました。生態工学の立場からの説明で感銘を受けました。湿原・湿地の再生に向けての取り組みの中で、選別的な草刈り、火入れに関するものでした。

19時30分より、各県の活動状況の報告があり、岡山からは西本さんによる、白賀渓谷における生物多様性に関する緊急総合調査の結果について発表があり、風力発電所建設計画の中止の署名活動も行われました。その後、20時から21時まで参加料500円の懇親会がにぎやかに開かれ、各県のたくさんのお土産で盛大になりました。あっという間の1時間で、飲み足りない、話し足りない人たちは部屋に戻り24時ころまで話は続いた様子でした。

翌日の日程は、8時30分からの散策開始、私はブナ林散策コースを選び、16名の参加がありました。もう一方は擬宝珠山登山コース(標高1,110m)でした。ブナ林では鳥取県の清未幸久さんの案内で始まり、皆さんはあたかも、NHKドラマ「らんまん」の榎野万太郎のように、数メートル進むごとに研修がありました。主にキノコを中心としたものとなり、興味・関心の強い人ほど熱心でした。11時に終了し、後は自由散策となり、昨日行った湿原へと足を運んでいました。11時45分に集合。閉会式となり、記念撮影を自然保護憲章発祥の地碑前で行いました。来年は山口県十種が峰周辺で4月中旬実施となります。

(追記)40年前に赴任した島根県国立三瓶青年の家近くの姫逃が池草原地で、オリエンテーリング実施中に発見したマツムシソウの可憐さに感動したことを思い出しました。二、三株でしたが、それに比べて鏡ヶ成のマツムシソウは群生していました。



写真1. 火入れや草刈りをして草原として再生させ、多く花が咲くようにした様子を観察。



写真2. 水がしみだし周辺では、湿原特有の植物が増えた様子を観察。



写真3. マツムシソウが群生。



写真4. にぎやかな懇親会。



写真5. 烏ヶ山を背景に自然保護憲章発祥の地碑前で記念撮影。